令和７年12月17日開催
五島市ノーリフティング登録事業所フォローアップ協議

令和７年12月16日12：30-13：15開催

R7第３回五島市ノーリフティング推進チーム会議

【協議した内容】

（1）登録事業所職員が、推進チーム員の就労先へ見学に行った結果等を報告

① Ａ事業所、Ｂ事業所について（野口チーム員、赤尾チーム員）
② Ｃ事業所について（中里チーム員、西村チーム員）
③ Ｄ事業所について（西津チーム員、出口チーム員）
④ Ｅ事業所について（山田チーム員、今川チーム員）
⑤ 全体的な問題点・改善案

（2）今後のフォローアップの方法等について

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

・チーム員からヒアリングを受けた５か所の登録事業所の職員が、チーム員の勤務先の事業所へ見学に行き、ノーリフティングの取り組み状況等を体験・質問した結果を報告していただいた。

⇒それぞれの登録事業所ごとに悩み等があり、チーム員がどう対応したらいいか迷ったこと等を、一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワークの方にご助言いただいた。（以下抜粋）

（機器の補助金について）
補助対象となる、テクノロジー補助金の一覧がある「TAIS」を活用してもいいのでは。その他、労働局が出している職場環境改善等の補助金（エイジフレンドリー補助金）もあったように思う。

（抱え上げ動作等について）
腰痛ベルトは根本的な改善にならない。体の使い方を学習して本当の予防に繋げる必要がある。「マルポスメジャー」というものもあり、これは腰に巻いて曲げた角度がわかり、一定の角度で音や振動で知らせてくれる。中腰になるタイミングが多いのは、デイでお風呂に入れて足を洗う際。腰痛者もデイ職員が多いと聞く。

（機器の使い方について）

機能維持・向上でも機器を使っていくべき。医療と介護の連携を市にお願いできないか。機器を使ってノーリフティングを進めていくなら、例えば病院の回復期入院の際や在宅に戻った後も考えられる。ケアマネがノーリフティングのことをよく知らないので、そこに広められれば。

（人材のシェアについて）
例えば病院と組んで、夜勤を看護師の方にバイトで入ってもらう等、人材のシェアができれば。

・今後の取り組みについて

⇒ヒアリング・見学をした登録事業所は、今後もフォローしていきたい。これまでの取り組みで、当初提出いただいていた「チェックリスト」の内容に変更があると思われるので、もう一度点数をつけていただき、チーム員で共有して訪問等のフォローアップができれば。

⇒規模が小さい介護事業所に向けて、ノーリフティングを進めていくのが難しい。機器のリース等、購入まで踏み込めない事業所にはまず体験してもらうことで、必要性を感じてもらえれば。

【今後の流れ】
① 事務局より、全登録事業所あてに「チェックリスト」の再点検・再提出をお願いする。
② ①の内容をチーム員に共有。
③ ①の内容をもとに、チーム員が今後も訪問等フォローしていく。